

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料6

協議会名: 東海市地域公共交通会議

令和 年 月 日

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む) | |
|----------------------|---|--|-------------|---|---------------------|--|
| 【補助対象となる事業者名等の名称を記載】 | 【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】 | 【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】 | A・B・C 評価 | 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】 | A・B・C 評価 | 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載 |
| 知多乗合株式会社 | (1)東海市循環バス中ルート③ 太田川駅を起終点とする 23.9km (2)東海市循環バス中ルート④ 太田川駅前を起終点とする 23.7km (3)東海市循環バス南ルート⑤ 加木屋車庫前を起終点とする 24.2km (4)東海市循環バス南ルート⑥ 加木屋デイスサービスセンター を起終点とする 23.6km | 昨年10月のダイヤ改正に伴う朝夕ダイヤの新設に併せて、定期券制度の導入を行った。 より利用しやすく充実した公共交通となるよう、バスロケーションを導入するとともに、GTFSデータをホームページに公開した。 また、バス車内におけるQRコード決済を可能にし、更なる利便性の向上を図った。 | A | 定期券制度の導入により、毎日利用される方の乗降に係る負担を減らすことができた。定期券の販売箇所については、利用者の多い太田川駅を追加することで、更なる利便性向上を図った。バスロケーションシステムの導入により、バスの運行状況をリアルタイムで知ることができるため、バス停での待ち時間を最小限にしたり、早い段階で他の公共交通機関への乗り換えが可能になった。GTFSデータの公開を行ったことによりGoogle mapでの検索が可能になり、交通手段の一つとして周知を図ることができるようになった。 | B | 定期券やQRコード決済の周知を図り、利便性の良さを理解してもらい、通勤・通学で駅を利用される方の利用を増やしていく。 また、車内消毒だけでなく、抗菌処理を施し、その旨をしっかりとPRしていただくことで、安心して利用してもらえる環境を整えていく。 福祉部局等と連携を図りながら、高齢者を対象とした乗り方教室を実施する際に、バスロケーションシステムの使い方についても説明し、バスの利便性について知ってもらうことで、利用促進に繋げていく。 |
| | | | | ダイヤ改正により、乗り換えなしで市役所まで行けるようになり、利用者の負担軽減を図ることができた。 定期券制度の導入により、毎日利用される方の乗降に係る負担を減らすことができた。 GTFSデータの公開を行ったことによりGoogle mapでの検索が可能になり、交通手段の一つとして周知を図ることができるようになった。 | | 定期券やQRコード決済の周知を図り、利便性の良さを理解してもらい、通勤・通学で駅を利用される方の利用を増やしていく。 また、車内消毒だけでなく、抗菌処理を施し、その旨をしっかりとPRしていただくことで、安心して利用してもらえる環境を整えていく。 公共施設で行われるイベント案内のチラシ等に交通手段の中に循環バスを記載してもらう等、バスの利用を促していく。 |

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

資料6-1

令和 年 月 日

| | |
|-----------------------------|---|
| 協議会名: | 東海市地域公共交通会議 |
| 評価対象事業名: | 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 |
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | <p>東海市は、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅から知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市のJR共和駅・大府駅と太田川駅を連絡する独自路線バス(知多バス上野台線・横須賀線)により東西の公共交通基幹軸が形成されている。これらの公共交通基幹軸を補完し、市内の公共施設及び住宅地域を結ぶ地域内フィーダー交通として循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。</p> <p>地域内フィーダーである東海市循環バスは、平成25年度に実施したバス利用者及び市民アンケートでは82%の市民からバス交通は必要であるとの回答が得られているものの、R02.10月～R03.09月中の利用人数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり27万9千人と大きく落ち込んだ。また、地域間幹線系統である知多バス横須賀線については、沿線にある高等学校の利用者数が減少している等の理由から収益が伸び悩んでおり、平成28年には一部路線が廃止となる等、幹線の路線維持が喫緊の課題となっている。</p> <p>令和6年3月には市内に名古屋鉄道の新駅(名鉄河和線 高横須賀駅～南加木屋駅間)が完成し、令和6年度中には隣接する大府市へ抜ける養父森岡線(幹線道路)が開通することから、今後市内交通の流れが大きく変わることが予想される。</p> <p>また、本市の中心的交通結節点である太田川駅周辺には、東海市芸術劇場を始めとした文化施設・大学・商業施設等が整備されており、各施設の来訪者のみならず、令和9年のリニア中央新幹線の開通に併せて新たな人流が生まれ、より一層の「にぎわい」創出が予想される。</p> <p>昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、民間路線を含めた市内ほぼ全ての公共交通機関において利用者数が大きく落ち込んでいる。今後も平成27年度に策定した東海市地域公共交通網形成計画を推進しながら、市民の公共交通に対する期待値が変化してきていることも鑑み、地域における輸送資源を最大限生かした持続可能な公共交通体系の構築を目指しているところである。</p> |

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

東海市地域公共交通会議

平成22年2月17日設置

平成28年3月 東海市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：平成28年年度～令和5年度)

令和3年6月25日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

| 直近の二次評価結果 | 事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容) | 今後の対応方針 |
|--|--|---|
| 小学生や高齢者、園児の保護者を対象にバスの利用促進を図る取組を評価する。 | 引き続き、小学生に対するバスの乗り方教室の実施及び園児が描いた絵画作品をバスに掲示し親子や祖父母の利用促進に努めた。 | 園児が描いた絵画作品の展示回数を増やしたり、小学生に対するバスの乗り方教室の際に時刻表を配布する等して、親子でバスを利用してもらえるようなきっかけをつくっていく。 |
| バスロケーションシステムの導入、GTFS化への対応等、利用者の利便向上を図られることを期待する。 | バスロケーションシステムの導入、GTFSデータの公開及びQRコード決済の導入を行い、利用者の利便性向上に努めた。 | 福祉部署と連携を図りながら、高齢者に対するバスロケーションシステムやQRコード決済の周知を図り、公共交通機関を利用するきっかけをつくっていく。 |
| 広域路線の維持等、近隣市町と連携した取組が行われることを期待する。 | 近隣市から本市への乗り入れに際し、共同してバス停を利用する等、連携して広域路線の維持に努めた。 | 利便性を充実させるとともに、新しい道路の開通に合わせて、アンケート調査等により市民の需要を把握に努め、近隣市と連携を図りながら乗り入れを検討し、ルート編成を行う。 |

【地域特性】

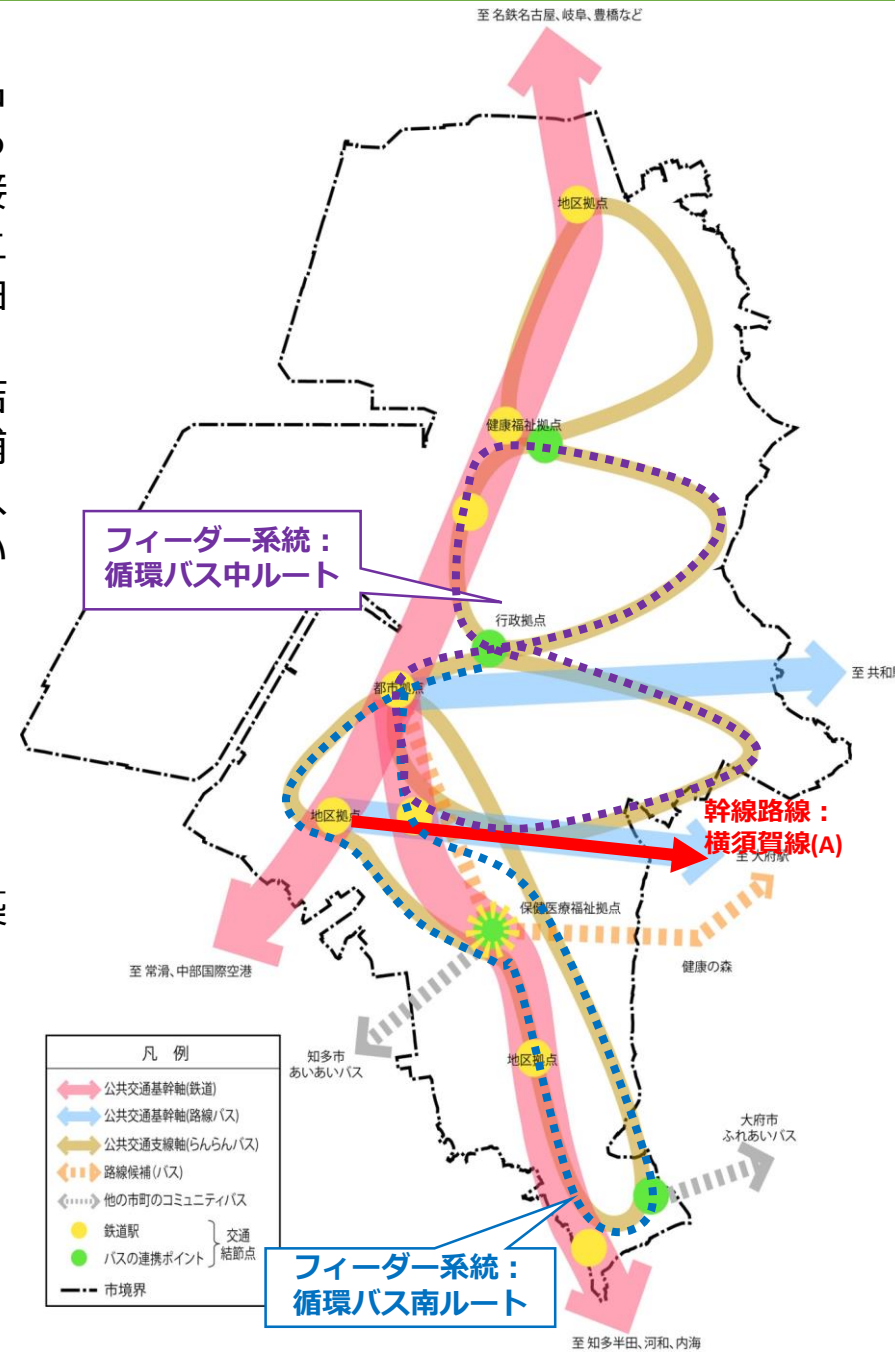
市内には、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅と知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により、南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市と太田川駅を連絡する独自路線バス（上野台線・横須賀線）により、東西の公共交通基幹軸が形成されている。

また、市内の各拠点及び公共施設や住宅地域を結びながら東西・南北の公共交通基幹軸を地域的に補完し、地域内フィーダー交通という形で、循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。

【東海市地域公共交通網形成計画の目標及び期間】

- 目標：**
- ①地域の骨格を形成する公共交通の構築
 - ②だれもが利用しやすい交通環境の構築
 - ③公共交通間の連携強化
 - ④まちづくりと連携した公共交通体系の構築
 - ⑤環境や健康に配慮して、かしこく公共交通を使う
 - ⑥地域で支える公共交通
 - ⑦公共交通を使った高齢者の外出促進
 - ⑧公共交通を使った観光や買い物での交流人口の拡大

計画の期間：平成28年度～令和5年度の8年間



【主な取組み】

1. 地域からの意見聴取結果を精査した、路線等の改正案の検討

- ・東海市地域公共交通会議を4回開催し、利便性の向上等を目的とした改正案の協議を行った
- ・改正日：令和2年10月1日
- ・主な改正内容：通勤・通学のための利便性向上を目的とした朝夕ダイヤの新設、慢性的な遅延解消のため1ルート120分に変更、昼間時間帯ルートの変更（南ルートを市役所まで延伸）
- ・改正に併せて行った取組み：広報紙及びHPに掲載、時刻表を全戸配布、バス停のヘッドパネルの変更（ナンバリング・ピクトグラム・英語表記の追加）



ヘッドパネルデザイン

2. バスロケーションシステムの導入等

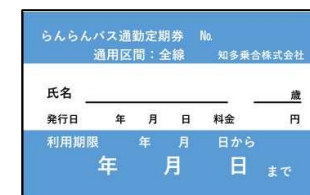
- ・利用者の利便性向上に努めるために、スマートフォン等で全バス停の運行状況をリアルタイムで見ることが出来るバスロケーションシステムを導入し、座標データを活用してGTFSDデータを作成・公開した。



バスロケーションシステム
導入のお知らせ

3. 定期券の導入

- ・通勤・通学で利用される方の利便性向上を図るため、朝夕ダイヤの新設に併せて定期券を導入した（1箇月2,000円、最長3箇月まで購入可）
- ・販売開始日：令和2年10月1日
- ・販売場所：知多乗合株式会社 東海営業所、東海市観光物産プラザ（太田川駅内）
- ・販売実績：177枚（R2.10～R3.9）



定期券

【主な取組み】

4. QRコード決済の導入

- ・利用者の支払い手段の拡充を図るため、バス車内における運賃支払い及び回数券購入の際にQRコードでの決済を可能にした
- ・開始日：令和3年9月1日
- ・利用実績：9月（運賃支払い22件、回数券7件）、10月（運賃支払い47件、回数券7件）、11月（運賃支払い70件、回数券13件）

QRコード決済のご案内
 このバスは、以下のQRコード決済で運賃をお支払いいただけます。
 運賃支払いの際に、係員がお客様のQRコードを読み取りますので、QRコード画面をご提示ください。



QRコード決済の案内

5. バス車内でのイベントの実施

- ・市内園児が描いた絵画作品を車内に展示し、親子や祖父母の利用促進を図った
- ・実施期間：令和3年7月30日～9月30日



園児の絵画掲示

6. 小学生を対象としたバスの乗り方の実施

- ・バス事業者と協力し、市内小学校（1校）を対象にバスに親しむ機会の創生のため、バスの乗り方教室を実施した（令和3年11月8日 三ツ池小学校1年生対象）
- ・実施内容：バスの内輪差と死角、バス停付近の危険性について学習、バスの乗車体験



乗り方教室

【主な取組み】

7. 免許証自主返納者に循環バス特別乗車証やタクシー利用助成券を配布

- ・ 運転免許証自主返納支援策として、循環バス特別乗車証やタクシー利用助成券（400円券×5枚、1回の乗車で2枚まで使用可）を配布し、運転免許証返納後の足の確保だけでなく、循環バスやタクシーの利用促進にも寄与している
- ・ 令和2年度実績：循環バス特別乗車証交付102人、タクシー利用助成券交付264人



特別乗車証と助成券

8. 障害者の本人確認を障害者手帳アプリ（ミライロID）での代用開始

- ・ 障害者の本人確認を簡素化するため、障害者手帳アプリによる本人確認を開始し、障害者の利便性向上に努めた（車内にステッカー掲示、HPに掲載）
- ・ 開始日：令和3年6月1日



車内ステッカー

9. 循環バス全車内の抗菌処理

- ・ 車内消毒や手指消毒液の設置の他、全車両にウイルス不活性化コート剤（概ね1年程度抗菌効果が持続）の施工を実施し、新型コロナウイルス感染リスクへの不安を取り除き、より安心・安全に利用できる環境を整えた（車内にステッカー掲示、バスロケーションシステムやHPに掲載）
- ・ 実施日：令和3年9月21日



抗菌処理の様子

【網形成計画における評価に係る事項】

| 成果指標 | 平成30年度目標値 | 平成30年度実績 | 令和2年度実績 |
|---------------------------------|------------|------------|------------|
| 市内鉄道乗降客数 | 45,500人/日 | 54,077人/日 | 42,679人/日 |
| 市内路線バス利用者数 | 367,000人/年 | 281,000人/年 | 244,620人/年 |
| らんらんバス利用者数 | 350,000人/年 | 439,172人/年 | 299,336人/年 |
| 買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思う人の割合 | 58% | 60.1% | 63.8% |

【参考指標】

| 成果指標 | 平成30年度実績 | 令和2年度実績 |
|------------------------------|----------|---------|
| 鉄道やバスなどの公共交通機関が利用しやすいと思う人の割合 | 51% | 52.7% |

【フィーダー系統利用実績】

| | 中ルート輸送人員 | 南ルート輸送人員 |
|--------------------|----------|----------|
| 令和元年 (H30.10~R1.9) | 146,730人 | 135,485人 |
| 令和2年 (R1.10~R2.9) | 122,559人 | 114,388人 |
| 令和3年 (R2.10~R3.9) | 93,079人 | 88,832人 |

◆目標達成状況に対する考察

平成30年度までは、平成28年度から開始した高齢者循環バス利用促進事業により、循環バスの利用者は増え続けていたが、令和2年度は新型コロナウイルスによる高齢者の外出自粛や公共施設の利用制限等の影響により利用者数が落ち込み、例年より約14万人の利用者数減少となった。

令和2年10月にダイヤ改正を実施し、朝夕ダイヤの新設、定期券の販売開始、バスロケーションシステムの導入等、利用者の利便性向上を図ったことから「公共交通機関が利用しやすいと思う人の割合」が改善し、「買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思う人の割合」の改善にも繋がった。

バス停のヘッドパネルにナンバリング、ピクトグラム及び英語表記を追加したことやGTFSデータを公開したことにより、訪日外国人旅行客や市外の方にも分かりやすいバス停表示やバスルートを検索しやすい環境となり、利便性の向上に繋がった。

定期券の販売を開始したことにより、通勤・通学で利用される方以外にも日常的に利用される方の利便性の向上に寄与し、販売箇所も運行事業所だけでなく、循環バス利用者の多い太田川駅での販売も追加し、購入の促進に寄与した。

園児の絵画作品をバス車内に展示することで、親子や祖父母の利用促進を図り、公共交通を利用するきっかけ作りに貢献した。

令和2年度から運転免許証を自主返納した75歳未満の方に対する贈呈品を、循環バスの回数券から循環バスの特別乗車証に変更したことにより、運転免許証自主返納を促すだけでなく、継続して公共交通機関を利用するきっかけとなっている。

令和3年9月に導入したQRコード決済においては、導入後、毎月利用実績が増えており、利用者の利便性向上に繋がるだけでなく、運賃支払いの際の接触機会の軽減にもなっている。

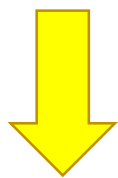
抗菌処理を施した旨を車内に表示することや広報紙への掲載を行うことで、感染予防対策の徹底を理解してもらい、利用者の増加を図っている。

課題



自家用車での移動が多く、公共交通を利用する機会が少ないため、バスを利用するきっかけをつくること
新型コロナウイルスの影響もあり、利用者が減少しているため、安心して利用してもらえるバス環境をつくること

対応方針



- ・モビリティ・マネジメントを充実させる
- ・安心・安全な運行を実施している旨をPRする
- ・公共交通の利便性や必要性についてPRする

対応方針の実現に向けた取り組み

- ・高齢者に対するモビリティ・マネジメントを実施する際に、バスの乗り方の他にも、時刻表の見方、バスの乗り継ぎの仕方、バスロケーションシステムの使い方やQRコード決済の仕方についても説明する。
- ・小学生に対するバスの乗り方教室を実施する際に、高学年対象の場合は環境保護や交通弱者の移動手段の確保など、公共交通の必要性を説明する。また、時刻表を配布する等して親子でバスに乗るきっかけづくりも行う。
- ・循環バスの全車両に抗菌処理を施し、その旨を車内のステッカー表示だけでなく、広報紙やHP等でPRして、安心・安全に利用してもらえるように努める。
- ・広報等で運転免許証の自主返納を促す記事を掲載する際に、循環バス特別乗車証の交付の他、車の維持費がなくなり年間の交通費が安くなる旨をPRする。また、地元警察署や福祉部署や市民協働関係部署と連携して、公共交通について理解を図る機会をつくっていく。
- ・定期券の販売促進を図るため、販売先だけでなく、車内や広報紙等でも積極的にPRを行っていく。
- ・将来、近隣市への乗り入れ等を検討していく中で、新たな需要の発掘のために市民アンケートを実施する